



平成23年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成22年7月30日

上場会社名 日本高周波鋼業株式会社 上場取引所 東
 コード番号 5476 URL http://www.koshuha.co.jp
 代表者 (役職名) 取締役社長 (氏名) 大西 功一
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役管理部長 (氏名) 田中 慶壽 (TEL) 03(5687)6025
 四半期報告書提出予定日 平成22年8月12日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 平成23年3月期第1四半期の連結業績（平成22年4月1日～平成22年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
23年3月期第1四半期	9,711	58.9	172	—	151	—	170	—
22年3月期第1四半期	6,113	△56.0	△764	—	△802	—	△832	—

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
23年3月期第1四半期	1	16	—	—
22年3月期第1四半期	△5	68	—	—

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率		1株当たり純資産	
	百万円	百万円	百万円	百万円	%	円	銭	
23年3月期第1四半期	41,110	17,652	17,652	17,533	42.9	120	38	
22年3月期	39,693	17,533	17,533	17,533	44.2	119	56	

(参考) 自己資本 23年3月期第1四半期 17,652百万円 22年3月期 17,533百万円

2. 配当の状況

	年間配当金									
	第1四半期末		第2四半期末		第3四半期末		期末		合計	
	円	銭	円	銭	円	銭	円	銭	円	銭
22年3月期	—	—	0	00	—	—	0	00	0	00
23年3月期	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
23年3月期(予想)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(注1) 当四半期における配当予想の修正有無：無

(注2) 当社は、定款において9月30日(第2四半期末日)および3月31日(期末日)を配当基準日と定めておりますが、現時点では当該基準日における配当予想額は未定であります。

3. 平成23年3月期の連結業績予想（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

(%表示は通期は対前期、第2四半期(累計)は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
第2四半期(累計)	19,100	47.5	190	—	120	—	60	—	0	41
通期	39,600	33.4	1,170	—	1,030	—	910	—	6	21

(注) 当四半期における業績予想の修正有無：無

4. その他（詳細は（添付資料）3ページ「その他の情報」をご覧ください。）

(1) 当四半期中における重要な子会社の異動：無

新規 一社（ ） 除外 一社（ ）

(注) 当四半期会計期間における連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動の有無となります。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の適用：有

(注) 簡便な会計処理及び四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用の有無となります。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更

① 会計基準等の改正に伴う変更：有

② ①以外の変更：無

(注) 「四半期連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項等の変更」に記載される四半期連結財務諸表作成に係る会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の有無となります。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

23年3月期 1 Q	146,876,174株	22年3月期	146,876,174株
23年3月期 1 Q	231,728株	22年3月期	225,006株
23年3月期 1 Q	146,646,900株	22年3月期 1 Q	146,708,392株

② 期末自己株式数

③ 期中平均株式数（四半期累計）

(※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示)

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

(※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項)

(1) 連結業績予想は、第2四半期連結累計期間、通期とも平成22年4月28日に公表致しました予想から修正しておりません。

(2) 業績予想につきましては、当社が現状で判断しうる一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性がありますことをご承知おきください。なお、上記業績予想に関する事項につきましては、四半期決算短信（添付資料）3ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご参照ください。

(3) 当期の配当につきましては、今後の需要動向など経営環境が不透明であるため、現時点では未定とさせていただきます。今後の業績や財政状態等を検討し、開示が可能となった時点で速やかに開示致します。

○添付資料の目次

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. その他の情報	3
(1) 重要な子会社の異動の概要	3
(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要	3
(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要	3
3. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 継続企業の前提に関する注記	8
(5) セグメント情報	8
(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9
4. 第1四半期決算概要	10

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

金融危機に起因する需要の急激な落ち込みから脱出したわが国経済は、当第1四半期においても緩やかながら回復基調を辿ってまいりました。とりわけ、新興国経済の強まりを背景に輸出需要は増加を続けました。また、企業収益の回復に伴い、設備投資は下げ止まりに向かい、個人消費も各種対策の効果などから持ち直してまいりました。特殊鋼業界におきましても需要は昨年の急落から持ち直し、足元は安定してまいりました。

このような環境下、当社グループは需要回復に伴い増産基調を維持する一方、継続して緊急収益改善策を推進した結果、収益は黒字へ転換いたしました。当第1四半期の業績は売上高9,711百万円（前年同期比58.9%増）、営業利益172百万円（前年同期は764百万円の損失）、経常利益151百万円（前年同期は802百万円の損失）、当期純利益170百万円（前年同期は832百万円の損失）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

[特殊鋼]

堅調なHDD需要や自動車関連向けの回復に加え、工具鋼や産業機械向けで在庫調整が進展したことにより、売上高は7,541百万円（前年同期比48.9%増）と増加いたしました。また営業利益につきましても、40百万円（前年同期は592百万円の損失）となりました。

[鉄鋼]

輸出需要を背景としたトラック関連や建設機械向け需要などの回復により、売上高は1,728百万円（前年同期比125.1%増）と増加いたしました。営業利益につきましても、129百万円（前年同期は87百万円の損失）となりました。

[金型・工具]

自動車関連向け金型部品の需要回復に加え、工具製品等の在庫調整が進展したことにより、売上高は441百万円（前年同期比58.1%増）と増加いたしました。また営業利益につきましても、3百万円（前年同期は85百万円の損失）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

①資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、受取手形及び売掛金の増加1,529百万円及びたな卸資産の増加76百万円等による流動資産の増加1,742百万円、有形固定資産の減少244百万円、投資有価証券の減少82百万円等により41,110百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,417百万円増加しました。

負債合計は、支払手形及び買掛金の増加1,410百万円等による流動負債の増加1,144百万円、長期借入金の増加201百万円等による固定負債の増加152百万円により23,457百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,297百万円増加しました。

純資産合計は、四半期純利益の計上170百万円、その他有価証券評価差額の減少50百万円等により17,652百万円となり、前連結会計年度末に比べ119百万円増加しました。

②キャッシュ・フローの状況

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、前連結会計年度末に比べ43百万円増加し、829百万円となりました。

当第1四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

税金等調整前四半期純利益128百万円、減価償却費420百万円、仕入債務の増加1,376百万円等により増加した一方、売上債権の増加1,529百万円等により減少した結果、453百万円の収入（前年同期は1,007百万円の支出）となりました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

主に有形固定資産の取得による支出132百万円等により、128百万円の支出(前年同期は149百万円の支出)となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

長期借入れによる収入210百万円により増加した一方、短期借入金の返済による支出457百万円等により減少した結果、281百万円の支出(前年同期は1,406百万円の収入)となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

わが国経済は持ち直しの動きを示しておりますが、取り巻く環境は依然厳しい状況にあります。当社グループは更なる業績の改善に努めてまいります。足元では世界経済の先行きや円高、政策効果の息切れなど見極めが必要なりリスクへの懸念が強まっております。

平成22年4月28日に発表いたしました第2四半期連結累計期間および通期の業績予想につきましては、現時点において変更はありません。

また、当期の配当につきましては、今後の需要動向など経営環境が不透明であるため、現時点では未定とさせていただきます。

なお、業績予想の修正および配当予想につきましては、開示が可能となった時点で速やかにお知らせいたします。

2. その他の情報

(1) 重要な子会社の異動の概要

該当事項はありません。

(2) 簡便な会計処理及び特有の会計処理の概要

簡便な会計処理

(棚卸資産の評価方法)

当第1四半期連結会計期間末の棚卸高の算出に関しては、実地棚卸を省略し、前連結会計年度末の実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法によっております。

また、棚卸資産の簿価切下げに関しては、収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。

(3) 会計処理の原則・手続、表示方法等の変更の概要

(資産除去債務に関する会計基準の適用)

当第1四半期連結会計期間より、「資産除去債務に関する会計基準」(企業会計基準第18号 平成20年3月31日)及び「資産除去債務に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第21号 平成20年3月31日)を適用しております。

なお、これによる損益に与える影響はありません。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	221	120
受取手形及び売掛金	8,177	6,648
製品	2,661	2,742
仕掛品	5,151	5,141
原材料及び貯蔵品	3,462	3,314
その他	1,147	1,109
貸倒引当金	△12	△8
流動資産合計	20,810	19,068
固定資産		
有形固定資産		
機械装置及び運搬具(純額)	6,434	6,711
土地	8,507	8,507
その他(純額)	4,003	3,971
有形固定資産合計	18,945	19,190
無形固定資産		
無形固定資産	106	106
投資その他の資産		
投資有価証券	892	974
その他	391	391
貸倒引当金	△36	△37
投資その他の資産合計	1,247	1,328
固定資産合計	20,299	20,625
資産合計	41,110	39,693

(単位：百万円)

	当第1四半期連結会計期間末 (平成22年6月30日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成22年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,070	5,659
短期借入金	6,758	7,215
未払法人税等	66	51
賞与引当金	68	267
その他	2,585	2,211
流動負債合計	16,550	15,405
固定負債		
再評価に係る繰延税金負債	2,370	2,370
退職給付引当金	3,443	3,436
その他の引当金	62	57
その他	1,030	889
固定負債合計	6,907	6,754
負債合計	23,457	22,160
純資産の部		
株主資本		
資本金	15,669	15,669
資本剰余金	1,728	1,728
利益剰余金	△552	△723
自己株式	△31	△30
株主資本合計	16,814	16,644
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	103	154
土地再評価差額金	734	734
評価・換算差額等合計	838	888
純資産合計	17,652	17,533
負債純資産合計	41,110	39,693

(2) 四半期連結損益計算書
(第1四半期連結累計期間)

(単位: 百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
売上高	6,113	9,711
売上原価	6,068	8,703
売上総利益	45	1,007
販売費及び一般管理費	810	835
営業利益又は営業損失(△)	△764	172
営業外収益		
受取配当金	8	15
受取賃貸料	8	6
助成金収入	94	11
その他	33	22
営業外収益合計	145	56
営業外費用		
支払利息	21	17
売上債権売却損	9	5
出向者人件費負担金	12	12
休業費用	121	17
その他	18	24
営業外費用合計	182	78
経常利益又は経常損失(△)	△802	151
特別損失		
固定資産処分損	12	9
環境対策費	—	13
特別損失合計	12	23
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△814	128
法人税、住民税及び事業税	9	25
法人税等調整額	8	△67
法人税等合計	18	△42
少数株主損益調整前四半期純利益	—	170
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△832	170

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成21年4月1日 至 平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△814	128
減価償却費	458	420
退職給付及び役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	△34	12
売上債権の増減額(△は増加)	1,047	△1,529
たな卸資産の増減額(△は増加)	933	△76
仕入債務の増減額(△は減少)	△2,236	1,376
その他	△354	152
小計	△1,000	483
法人税等の支払額	△7	△30
営業活動によるキャッシュ・フロー	△1,007	453
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△147	△132
利息及び配当金の受取額	10	16
その他	△11	△12
投資活動によるキャッシュ・フロー	△149	△128
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	1,671	—
短期借入金の返済による支出	—	△457
長期借入れによる収入	—	210
長期借入金の返済による支出	△21	△8
リース債務の返済による支出	△5	△7
自己株式の取得による支出	△0	△0
配当金の支払額	△220	—
利息の支払額	△18	△17
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,406	△281
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	248	43
現金及び現金同等物の期首残高	235	786
現金及び現金同等物の四半期末残高	484	829

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) セグメント情報

[事業の種類別セグメント情報]

前第1四半期連結累計期間(自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)

	特殊鋼 (百万円)	鋳鉄 (百万円)	金型・工具 (百万円)	計 (百万円)	消去又は全 社(百万円)	連結 (百万円)
売上高						
(1) 外部顧客に対する売上高	5,066	767	279	6,113	—	6,113
(2) セグメント間の内部 売上高又は振替高	31	1	5	39	(39)	—
計	5,098	769	284	6,152	(39)	6,113
営業損失(△)	△592	△87	△85	△764	—	△764

(注) 1 事業区分は、製品の系列及び市場の類似性を考慮して区分しております。

2 各事業の主な製品

- (1) 特殊鋼……………鍛鋼品(ダイス鋼、プラスチック金型用鋼、その他精密鍛造材)
特殊鋼圧延鋼材・同二次加工品(軸受鋼、特殊ステンレス鋼、特殊合金)
その他(加工品、ビレット、その他)
- (2) 鋳鉄……………自動車部品、建設機械部品、合金鉄製造用の鋳型等各種鋳物製品(ダクタイル鋳物、普通鋳物)
- (3) 金型・工具……………各種金型及び金型部品、各種特殊工具、完成バイト、付刃バイト、精密バイト、一般切削工具

[所在地別セグメント情報]

前第1四半期連結累計期間(自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)

本邦の売上高は、全セグメントの売上高の合計に占める割合が90%超であるため、所在地別セグメント情報の記載を省略しております。

[海外売上高]

前第1四半期連結累計期間(自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)

	アジア	その他の地域	計
I 海外売上高(百万円)	855	4	859
II 連結売上高(百万円)			6,113
III 連結売上高に占める海外売上高の割合 (%)	14.0	0.1	14.1

(注) 1 国または地域は、地理的近接度により区分しております。

2 各区分に属する主な国又は地域

- (1) アジア …………… タイ、台湾、中国 他
- (2) その他の地域 …… アメリカ合衆国 他

3 海外売上高は、当社および連結子会社の本邦以外の国または地域における売上高であります。

〔セグメント情報〕

1. 報告セグメントの概要

当社グループの報告セグメントは、当社グループの構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっているものであります。

当社グループは、製品・サービス別のセグメントから構成されており、「特殊鋼事業」、「鑄鉄事業」及び「金型・工具事業」の3つを報告セグメントとしております。

「特殊鋼事業」は、特殊鋼圧延鋼材や鍛鋼品等特殊鋼製品の製造・販売を行っております。「鑄鉄事業」は、自動車部品や建設機械部品等鑄物製品の製造・販売を行っております。「金型・工具事業」は、金型及び金型部品、各種切削工具等の製造・販売を行っております。

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

当第1四半期連結累計期間（自 平成22年4月1日 至 平成22年6月30日）

(単位：百万円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
	特殊鋼	鑄鉄	金型・工具	計		
売上高						
外部顧客への売上高	7,541	1,728	441	9,711	—	9,711
セグメント間の内部売上高 又は振替高	48	10	5	63	△63	—
計	7,590	1,738	446	9,775	△63	9,711
セグメント利益	40	129	3	172	—	172

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(追加情報)

当第1四半期連結会計期間より、「セグメント情報等の開示に関する会計基準」(企業会計基準第17号 平成21年3月27日)及び「セグメント情報等の開示に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第20号 平成20年3月21日)を適用しております。

(6) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

4. 第1四半期決算概要

平成22年7月30日
日本高周波鋼業株式会社

平成23年3月期 第1四半期決算概要

連 結

1. 当四半期の業績(累計)と通期予想

(単位: 百万円、%)

摘要	当期 23年3月期 第1四半期	(対前年同期)		前年同期 22年3月期 第1四半期	通期予想 23年3月期
		増減額	増減率		
売上高	9,711	3,598	58.9%	6,113	39,600
営業利益	172	937	—	△764	1,170
経常利益	151	953	—	△802	1,030
四半期(当期)純利益	170	1,003	—	△832	910
設備投資	178	78	78.3%	99	1,800
減価償却費	420	△38	△8.3%	458	1,800

2. セグメント別売上高・営業利益(累計)

【製品・サービス別】

(単位: 百万円)

摘要	当 期		前年同期		増 減	
	23年3月期第1四半期		22年3月期第1四半期		売上高	営業利益
	売上高	営業利益	売上高	営業利益		
特殊鋼	7,541	40	5,066	△592	2,475	632
鑄鉄	1,728	129	767	△87	960	216
金型・工具	441	3	279	△85	162	88
計	9,711	172	6,113	△764	3,598	937

【海外売上高】

(単位: 百万円、%)

摘要	当 期		前年同期		(対前年同期)	
	23年3月期第1四半期		22年3月期第1四半期		増減額	増減率
	売上高	連結売上高比	売上高	連結売上高比		
アジア	1,327	13.7%	855	14.0%	471	55.1%
その他の地域	14	0.1%	4	0.1%	10	264.3%
計	1,341	13.8%	859	14.1%	482	56.1%
連結売上高	9,711		6,113		3,598	58.9%

3. 経常利益増減益要因(前年同期比) ▲8億円 → 2億円(10億円の増益)

(単位: 億円)

増 益 要 因	金額	減 益 要 因	金額
1. 数量・構成	15	1. 販売価格下落	3
2. コスト削減	3	2. 原材料価格上昇	2
		3. 労務費増	2
		4. その他	1
計 (A)	18	計 (B)	8
		差引 (A)-(B)	10

個 別

1. 当四半期の業績(累計)と通期予想

(単位: 千トン、百万円、%)

摘要	当期 23年3月期 第1四半期	(対前年同期)		前年同期 22年3月期 第1四半期	通期予想 23年3月期
		増減額	増減率		
売上高 (売上数量)	7,048 (23.4)	2,461 (11.0)	53.7%	4,587 (12.4)	29,300 —
営業利益	108	509	—	△400	700
経常利益	154	572	—	△418	700
四半期(当期)純利益	229	662	—	△432	730